

清 旬

会報^{せいしゅう}清旬 第43号 令和5年9月14日 飯能市退職校長会

教職をめぐる課題と本会の役割

会長 小見山 実

令和元年度の後半からコロナ禍のために、本会の活動も様々な制限を受け続け、事業の中止などをせざるをえない数年間でしたが、今年度からやっと通常の活動が見込めるようになりました。

本会の目的である「会員の親睦」と「地域の教育に寄与する」ことを達成するために、今年度はコロナ前の活動に全て戻して、再出発の年になしたいと考えております。会員の皆様方のご指導、ご支援、そして更なるご協力をよろしくお願いいたします。

さて、昨今の教職をめぐる状況は大変に厳しいものがあり、過日の新聞（6/21・朝日）一面トップには、「新任教諭 増える退職」という見出しで、精神疾患による退職者の増加を大きく伝えていました。

この他にも、教職についてのニュースは連日紙面を賑わせています。

以下、その見出しのいくつかを列挙します。

- ・教員不足 長時間労働などで教職敬遠

- ・教員の長時間労働 残業代ゼロ
- ・教員採用試験 受験者減少 定員割れ

- ・教職調整額見直し ―給特法―

- ・部動の地域移行教員の負担軽減

以前、「教職はブラックか」という拙文を本誌に寄せたが、これだけ教職をめぐる課題が多いと、世間一般の教職へのマイナスイメージに不本意ながら納得してしまいます。

これら教職の課題に接すると、半世紀前の自分の新任の頃はこうだったのかと思いを馳せることがあります。

私は、県内の私立男子高校が教職のスタートでした。どうしても公立中学校の教壇に立ちたいという思いから高校を退職し、臨時的任用で市内の中学校に意気揚々と赴任しました。

当時の中学校は、先輩諸氏もご存じのとおり、生徒指導で荒れていて、いわゆる「番長組織」があ

り、いきなり3年担任になったクラスにその番長がいました。部活動も持ち手不足で、自分は二つの部の顧問でした。

その後、同一校十年間で7回も3年の担任となり、授業と生徒指導、進路指導、部活動等で忙殺の日々が続きましたが、「人を育てる」という教育のロマンを軸足にして仲間を支えられ駆け抜けた新任時代でした。

今の教育とは内容や環境等比べようありませんが、当時の学校は人間関係に余裕があり、情や温かみが今以上にあったように思うのは自分一人だけでしょうか。

本会の目的である「地域の教育に寄与する」ために、教職のすばらしさや自分の教職経験を現職の先生方やこれから教職をめざす人たちに夢を持って語ることにも大事なことでないかと思っています。

「教職はブラック」というイメージを払拭するために本会の果たす役割は大きいと考えています。

賀 寿 顕 彰 者

叙 勲

叙勲おめでとうございます

永年に渡る教育活動への功績

永年に渡る教育活動の功績に対して、本年度は二名の方が叙勲の栄に浴されました。

浅 見 信 様 (川寺)

瑞宝双光章

令和五年一月一日付

飯能市教育委員会 扱

平成七年三月、飯能市立加治東小学校長を退職、
本会に入会して活動をしていただきました。

飯 島 士 郎 様 (稲荷町)

瑞宝双光章

令和五年四月一日付

飯能市教育委員会 扱

平成七年三月、飯能市立飯能第一小学校長を退職、
本会に入会して活動をしていただきました。



高齢者叙勲の栄に浴して

浅 見 信

令和五年二月二十七日、妻と共に飯能市教育委員会に出向き、中村教育長様より、高齢者叙勲「瑞宝双光章」の伝達を賜りました。若かった頃はもちろんのこと、教職を退職してからも、このたびのような栄に浴するとは夢にも思いませんでした。

これより先、飯能市退職校長会長（当時）の富士池先生にはご来宅の上、全国からの賀詞をお持ちくださり、米寿の誕生日の朝には本会からのご鄭重なるお祝いをいただきました。ここに会員皆様に厚く御礼を申し上げます。

これまで長寿でいられたことも家族やご支援いただいた方々のお陰です。現在は、デイサービスのトレーニングセンターを活用し、体力の回復と維持に励んでいます。

初任地は山峡静かな中学校五十二名の担任となる

初めての担任をせし三年間楽しき日々を忘ることなし

登校に苦しみ生徒の悩めるに寄り添いきれず悔いは今でも

定年を迎えし頃は思わざり米寿に生きる我あることを

米寿にて高齢者叙勲賜わるは更に学べの激励とせん

高齢者叙勲の栄に浴して

飯 島 士 郎

三月三日の誕生日に米寿を迎えた私は飯能市退職校長会長様のご来訪を受け、会員皆様からの賀詞や祝金を頂戴し、恐縮いたすと共に心より感謝いたしております。

私の教員生活は高麗川小学校を振り出しに日高町や飯能市の小学校五校、また、教育行政面では日高町教育委員会、飯能市教育委員会の学校教育課、それに県教育局入間教育事務所に勤務させて頂き、学校外の事も学ぶことができて有難かったです。このことも今回の叙勲に繋がったのではないかと感謝の念に耐えません。

なお、叙勲に際しましては三月下旬に受諾の意向や健康状態の打診、四月当初に叙勲決定の内示があつて、六月二十六日に飯能市教育委員会から教育長様はじめ、叙勲事務担当者等三名の方が拙宅にご足労賜わり、伝達式を挙行してくださいました。右脚大腿骨骨折最中の私にとってはこの上ないご配慮であり、感謝の言葉もありませんでした。帰庁の際は妻共々、心を込めてお見送りいたしました。今後とも私自身、自分を大事にしてくれた家族を守り、地域の為にも尽力していく所存です。

傘 寿

「今を最高に生きる」

― 明るく・楽しく ―

石 田 宣 雄

傘寿祝！80歳の祝。傘の略字の「傘」が八十に似ていることから。の祝。読みは「さんじゅ」

さて、私は10月22日が誕生日。80歳になります。「人生老多時」自由自在の時間が増えます。健康に恵まれ今を最高に生きる。充実した退職人生を心豊かに過ごしております。父は73歳で母は97歳でこの世を去りましたが、母までにはまだまだです。

「サーモン、カムバック」鮭は大きく成長し故郷に戻ります。鮭のように生まれ育った地域社会のために積極的に活動したいと思います。

少々手前味ではありますが、結びに、息子夫婦から額入りの詩が贈られてきましたので、
① ちずに努力し一生懸命② んらい厚く苦労も越える③ れにも誠実人柄ひかり④ びやか人生傘寿を祝う⑤ じ安泰の家庭を築き⑥ つかれ様と感謝を込めて健康長寿の米寿へ続く

今までの人生を振り返り、自分の生きたいように生きる「マイ、ウェイの人生！」を実践して参ります。

一日の始まり

中山 享

朝四時半、スカイハイツ前に数人が集まり歩き始める。八高線を横切り東へ向かう。青木地区を抜けると畑が広がり、ネギ、ジャガイモ、トマト、ダイコンと四季折々の野菜をながめる。南小畔川に沿って歩くと、鴨や鷺、時にはタスキ、キツネ、さらにカワセミにも会うことがある。精明小の西の田では、五月になると水が張られ田植えが始まる。苗も夏には一気に成長し、秋に収穫となる。精明小の北の竹林からは、ウグイスやホトトギスの鳴き声が届き、平松団地を南に曲がる。真正面遠くに富士山が、季節によって色を変えて見えてくる。ケーブルテレビ局前を過ぎた畑や草原には、雉子が独特の鳴き声で現れる。大川学園の前までくると、秋には桂の木の甘い香りが漂ってくる。冬は暗闇の中を歩き、運が良ければ月影の中をハクビシンに会ったりもする。空には明るく輝く「きぼう」や流れ星が通っていくこともある。約一時間の朝散歩が、こんなふうに自然豊かな飯能の地に住むことを体感させてくれる。

自然からの精気に触発され、目の前の一日を大切に生きていこうと考えている古希のこの頃である。

最近の生活から

充実の第二の人生

梶田 修司

定年退職後、教育界から離れ、市内のゴルフ場に勤めて五年目を迎えました。勤務は、週三〜四日です。

担当部署は、コース管理です。仕事内容は、グリーン刈り、バンカー均し、ホールカップ切り、ラフ刈り、芝張りなどの他、落ち葉・側溝清掃、草刈り、冬の期のシート掛け・剥ぎ等々多岐にわたります。雨風、猛暑、極寒等、外での仕事で、初めての事ばかりでした。一年間は体が慣れるまできつい日もありましたが、今では楽しくストレスもなく働いています。

そして、二年目から三年連続で秋に開催される女子プロゴルフトーナメント当日のホールカップ切りを担当しました。アルバイトの立場でありながら、大役を任せられ、久しぶりに責任感と緊張感を味わいました。生涯思い出に残る貴重な経験になりました。

一日働くと三万歩前後、歩くので、現役時代より体重も落ち健康的な生活を送っています。これからは友人達と趣味のゴルフを楽しみながら、あと五年は、この芝生の上での仕事を続けていきたいと思っています。

小さな挑戦を積み重ねて

土屋 利美

退職後、初任者研修担当を四年間務め、この春フリーになりました。第二の人生はアクティブシニアを目指し、楽観的で前向きな思考を心がけています。

先祖代々の農民のDNAなのか土に触れていると癒されます。二月のジャガイモの植え付けから始まり、サトイモ、サツマイモを育てながら、ネギや夏野菜にも気を配ります。夏場の雑草との闘いはかなり疲弊しますが、耕運機で畑全体をきれいに耕したときの爽快感は格別です。

地域で新しい知り合いをつくらうと活動の範囲も広がっています。月二回公民館の蕎麦打ち教室に通っています。蕎麦粉と水の微妙な相性を指先に感じながら、円錐形の団子を麺棒で延べていきます。師匠の手ほどきは欠かせません。

ボランティアとして、外国籍の方の日本語教室にも参加しています。マレーシア、モンゴル、中国の方と一対一で勉強しましたが、皆さん明るく友好的で、日本語会話がどんどん上達していく姿に感服しています。その他、ゴルフレッスンに通い、ストレス解消のための緩ジョギングに励んでいます。

「私のロールモデル」

横山 義武

私は退職後五年間、小中高の初任者等指導を行ってきた。その間、常に「本物の教師とは」を考えてきた。

私自身の教師のロールモデル（模範）は、多くの方がいる。その中でも特に思い出されるのは、昨年お亡くなりになった故吉田一幸先生である。

一幸先生は何に対しても「本気」であった。体育の授業では「こいのぼりや大車輪」を見せ、高鉄棒が男子の中で流行になった。

荒れた時代、生徒指導を一手に引き受け、千人を超す集会では、常に凛とさせた。時には、卒業生の家に行き「在校生に手を出すな」と。義理人情の世界であった。

また、部活動に出ない日はなく、全精力をつぎ込んでいた。敗戦した時は印刷室で一人隠れ泣いていた。

更に、教職員の和を深めるために、教員ラグビーチームを作り活動した。転出するとき、思い入れ多き校庭の土を食べ去っていった。吉田一幸先生は、熱き心をもった「本物の教師」だった。

感謝の気持ちを込めて、ご冥福をお祈りいたします。

年度中の行事報告

地域研修会



令和三年のNHKの大河「青天を衝け」で洪沢栄一が取り上げられました。栄一

は一橋家家臣募集で一橋領がある飯能付近にたびたび来たこともあり、この講演会を計画しました。しかし、コロナ禍のため、令和四年十月十五日にやっと開催することができました。

「飯能戦争と洪沢平九郎」と題し、入間地区退職校長会長で彰義隊十四番隊長比留間良八の子孫でもある比留間英雄先生にお話をさせて頂きました。

一 飯能戦争は戊辰戦争の一つ

飯能戦争は、慶応四年一月三日に始まる鳥羽伏見の戦いから明治二年五月十八日に終わる箱館戦争までの一年半に及ぶ戊辰戦争の中の一つです。上野戦争で敗れた彰義隊の隊士も加わり、五月二十三日の一日で決着がついた戦いででした。

二 飯能戦争に至るまで

日本史で習う大政奉還、王政復古の大号令により徳川慶喜拔きの新政府が樹立され、慶喜は朝敵になってしまいました。

慶喜追討令も出され、汚名を雪

ぐべく一橋家臣を中心に彰義隊が結成され、洪沢栄一の従兄弟の尾高惇忠、洪沢平九郎も参加し、頭取に洪沢成一郎が就任しました。しかし武闘派の天野八郎等と意見が合わず、彰義隊から別れ、田無で振武軍を結成しました。

五月十五日に彰義隊が破れ、比留間良八も仲間と上野を脱出して振武軍に加わり、五月十八日に飯能に移り能仁寺を本陣としました。約六百人の隊士が市内五ヶ寺に宿営しました。

三 飯能戦争の概略

新政府軍は、入間野田方面と双柳中山方面から進軍してきました。二十三日早朝、笹井村で戦端が開かれました。しかし、振武軍は、大砲を備え兵力に勝る新政府軍に、本陣の能仁寺を焼かれ半日で敗退しました。

多くの振武軍兵士は、天覧山から逃れて行きました。成一郎や惇忠らは横手村に逃れ、横手の三義人の助けにより上州へ逃げることでできました。

平九郎は独り山道を北に向かい、顔振峠で休み、黒山におりていきましたが、広島藩兵に脱走兵と分かり、打ちかけられ自刃して果てました。享年二十二。戦場となった飯能は四ヶ寺と町家約二百戸が焼ける被害を受けました。

四 洪沢平九郎について

栄一の妻の末弟で、長兄に惇忠、従兄に成一郎がいました。幼い時から学問や剣術の影響を受けて育

ちました。慶応三年、栄一が徳川昭武の随員としてパリ万博に渡仏する際、栄一の見立養子になり幕臣となりました。そして、鳥羽伏見の戦いの後、彰義隊に加わり、振武軍にも加わり奮戦しました。

新政府軍の脱走兵に対する処置は苛酷を極め、平九郎の首は、切り離され、越生の村の高札場に晒されました。その後、村人により秘かに法恩寺に葬られました。また、胴体は、自刃した近くの全洞院に葬られました。

平九郎は、性格温厚、沈着で勇氣と決断力があり、所作は美しく、色白長身で腕力があると評されていました。栄一に代わって戊辰戦争の動乱に巻き込まれたとも考えられます。明治三十二年栄一と惇忠が越生を訪れ、法要を行い平九郎の霊を弔いました。

生き

延びた

洪沢成

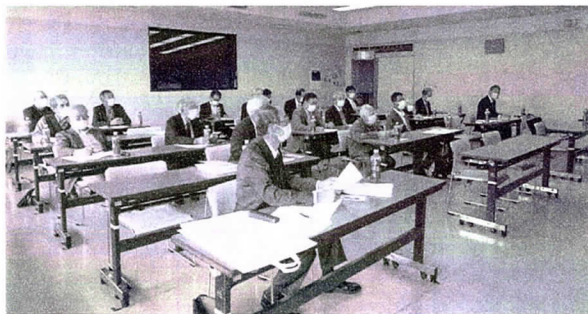
一郎は、

箱館戦争にも

参加し、

降伏後は実業

界で活躍しました。



は、役人となり富岡製糸場の初代場長になりました。比留間良八は、越生の親戚の家に潜み、後に許されて甲源一刀流の剣術を教え、多くの門弟を育てました。

○穏やかな人柄そのものの話しっぷりでしたが、八年かけて調べ、出版されたとのことで熱い思いがひしひしと感じられました。

○令和四年は慶応四年から百五十四年その中間点が昭和二十年とのこと不思議な縁を感じるとのことでした。

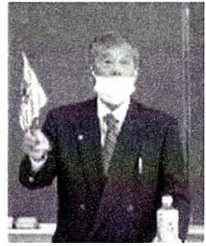
○テーマの内容ももちろんですが「羅漢山が天覧山と呼ばれるようになった理由」で、陸軍大演習が飯能で行われたことや「幻の明治神宮建設」で現代々木にある明治神宮がもしかしたら飯能にあったかもしれないという興味深い話など、時を忘れる有意義な時間でした。

○「江戸城無血開城」の立役者は西郷隆盛、勝海舟と相場が決まっているが、本当は山岡鉄舟が下準備をしておいたからうまくいったなどというような話など面白そうな話が次から次へと出てきて、知らず知らずと話に引き込まれてしまいました。

洪沢栄一の新一万円札が令和六年七月に発行されるそうです。早く手にしたいものです。

(文責・山下)

相互研修会



コロナ禍のため二年越しの研修会となりました。令和五年三月五日、講師

に石田宣雄先生をお迎えし、「My Way 私の心が決めたままに！」と題し、明るく楽しく今を最高に生きるために心がけてきたことのお話をして頂きました。

一 はじめに
教員になられた理由のお話をされました。先生は、吾野の医者の子に生まれ、父親の生死の明暗を分ける厳しい現実の仕事を日々見ていました。その中で、教員であった叔父の影響を受け、いかに生きるかを問える仕事として教員を選びました。

二 教員時代の経験から
先生の現場二五年行政一七年の中で、教員の在り方・生き方として、SV Vision 理想を求めるSSpeciality 専門性を磨く

先輩の先生や大政治家の業績を挙げ、アマは自分で満足するが、プロは専門性を磨くことを怠らないことを常に意識していました。

O Originality 創造性を持つ

P Personality 人間性を磨く

自分らしいものを作り出し、広

い心で人の話を聞けるようになることは一生の命題であることも意識していたとサントリーのお酒になぞられてお話をしていました。

若い頃、北川小での複式のわたりの授業の中で、指示をしつかりし児童の自主性を育てることがいかに大切かを経験しました。清原校長の「僻地は天才のふるさと」に大きな感銘を受け、それからの教育活動に生かしていききました。

また、富士見小では、多くのやる気と使命感に燃えた先生方と共に新しい学校づくりに励みました。その中で貴重な経験をされたとなど楽しそうにお話をされました。小学校は三学級並行規模の学校が最も教育効果を期待されると体感されました。

三 人生を心豊かに

やはり健康第一です。法然上人の月影の教えから、生活習慣をつくり、運動、食事に気をつけ、心を豊かにする生活を心がけようとする心の持ち方によって人生が変わると常から考えていました。

そして、社会参加をすること。現在、地域の多くの役員をされ、社会への奉仕活動も積極的にされています。多くの方々との交流により、張り潤いのある生活が出来ており、日々新しく楽しく生活されています。

また、趣味を持つこと。先生の趣味は旅行で、事前の準備し、すでに40ヶ国以上の国を訪れています。ご夫婦でもイエローナイフの

オーロラ、地中海クルーズなど22ヶ国へも行かれています。楽しみ方は、その国の飛行機で行き、その国でしかできないことをやることを心がけているそうです。

最後にやはり「教員の資質は、明るく心に余裕のある人」とのお話に、多くの参加者がうなずいていました。

お話の中に、昔の色々な数字や事実関係がスラスラ出てきました。重責を担われ、事実をきちんと見つめ腐心し、適正に判断されて仕事をされてきたのだなと感服しました。

○待望の相互研修会は、教育現場と行政の両面で尽力貢献された石田宣雄先生のお話、過ぎた日を思い出しながら拝聴しました。過去・現在・未来という時の流れの中で現在（今）を最高に楽しく生きることの意義を改めて自問自答した私です。先生

の多くの旅のお話の中で、カナダ・イエローナイフで初めてオーロラを観た時の感動、私も傍らで共有した



かったです。まさに「人生は出会いの旅」、有形無形の文化、人に出会うことで「生きる栄養源」が増加すると痛感しました。昭和41年4月、北川小の職員室に掲額された清原校長のことは「僻地は天才のふるさと」に衝撃を受け、いつか教育の心志に宿るようになってたのお話、地域の方の心の拠り所にもなったはず。とても味わい深いお話でした。

○先生の教諭、行政時代のお話までとても興味深く聞かせて頂きました。今を最高に生きる。先生の熱い思いを込めた人生と共にその時々状況が浮かんできました。

○先生のV S O Pのお話が再び聞けてうれしくなりました。富士見小時代の懐かしい先生の名前が出るたびに時間の長さを実感しました。自分自身のためにも健康、社会参加、趣味を持つことを実践していきたい。

○先生の生きざまを知り、今後の生活について考えるヒントをたくさん頂きました。特に「毎日、日々新しく」は心に残りました。

○豊富な経験に基づいた貴重なお話を聞き、現職の教員、管理職にも聞いてほしいと思いました。

コロナ前までは、研修会終了後、講師の先輩先生を囲んでの懇親会は、会員同士の情報交換の大切な機会でしたが、今回はまだ開けそうもなく、残念でした。

(文責・山下)

故人を偲んで

鈴木 浩先生を偲んで

細田 豊

昭和60年4月1日だったと記憶しています。職員室の窓から眼下に広がる校庭を見ると、一人の年配の方が校舎に向って歩いている姿が、目に映りました。第10代校長として赴任された、鈴木浩先生との初めての出会いでした。

当時の南高麗中学校は、体育館・プールに続き、前年度には防音新校舎が落成し南高麗中学校の変革の時でした。それだけに地域や保護者・生徒の期待も大きく、新しく着任される校長先生は、「大変だな」と思っていました。しかし、そんな私の杞憂はすぐに消えました。鈴木先生は、戦後の厳しい時期に教壇に立たれ、中学校一筋に歩まれた豊富なご経験は「いぶし銀」のような重厚さをお持ちでした。反面、穏やかで気さくに私達教職員に接して下さり、適切な助言と時には厳しいご指導で学校経営を進められ、多くの期待に応えた学校創りを進められました。退職後は、植物の栽培や水墨画など様々な趣味を見つけれられ、充実した余生を送られていたと聞いていました。鈴木先生有難うございまして。安らかに休み下さい。心よりご冥福をお祈りいたします。

(令和四年六月三日 ご逝去)

鈴木清司先生を偲んで

高野 満

清司先生は、原市場中学校の同級生の兄さん、更に教職員の先輩としてお世話になってきました。

三十数年前、私が退職して程無く、先生が来宅されて、「退職公務員連盟に入会してくれないか、そして、原市場地区の役員になってくれないか」との話をいただきました。何も分かりませんでした。先輩の一言に従い役をお受けしました。これを機に、毎月新聞をお届けにあがり、お会いし、言葉を交わす機会を得ました。先生は、会報「清脩30号」傘寿を迎えての中で、野菜作りで健康作りをされていると書かれています。よく農作業姿で畑仕事をされています。私に気づくと仕事の手を休め近づいてきて、「ご苦労さま」と声をかけていただきました。その気配りに感じ入りました。また集金に何うと奥様と共に対応していただき、仲の良いご夫婦の姿を目にし、羨ましくも良いなあと感じたことでした。温厚・誠実な人柄の素晴らしい先生でした。

先生の訃報に接した時、こんなに急にと驚く共に悲しみにくれました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(令和四年七月二十八日 ご逝去)

松本國二先生を偲んで

河野 啓司

「教頭さん。みんなステージに上がるときに礼をするけど、あれは何に礼をしているのか分かるかい？」と突然に松本先生。

「国旗ですか。」と私

「そう思う人もいるかもしれないが、卒業式を取り仕切る何かがステージ正面にいますよ。私には何かはわからないけどね。その何かに向かってどうか良い卒業式ができますようにと私は頭を下げているんだよ。」と松本先生。

事ある毎にこのような会話がありました。今思えば、私に校長になる心構えをいろいろとお話くださったってのだと思います。

原市場中学校開校五十周年記念式典が平成八年十月に開かれました。退職する松本先生には餞になります。

肅々と式典は進み、最後にステージ上では松本先生が、モーツァルトの「ドン・ジョヴァンニ」の中の一曲を朗々と歌い上げていたのです。体育館中に声が響き渡ります。「さすが本物の音楽の先生だ。」と生徒はもちろん参加者全員の声でした。

当時の松本先生の好きな言葉、「精神一到 何事かならざらん」

(令和五年一月二十一日 ご逝去)

思い出の写真



平成21年度 飯能市退職校長会総会 2009.5.2



富士見地区行政センター 2023.4.29

令和5年度 総会風景

会員の声

「退任にあたって」思ふこと

富士池 長雄

今年報じられたニュースのタイトルで、私が衝撃を感じたのは次の内容です。「昨年の子どもの自殺 過去最悪の五十二名、四割が男子高校生」、「PTAを休止・廃止・外注した学校」、「自治会活動 曲がり角 加入率低下、役員高齢化、解散も」の三つです。これらのことは、時代が変化して来たことによる社会現象であるように思えるのです。

日本人がその風土の中で育んできた「お互い様の心」や「助け合いの心」、子どもは地域の宝としての接する心、等の温かみのある人との関わり合いが極端に薄れてきたことに愕然としました。一部の家庭に於いて、家庭としてのあるべき姿が崩れつつあることに強い危機感を感じます。

科学技術の驚異的進歩に伴い、生活はより便利に豊かになったものの、心の豊かさは年々薄くなってきたように思われてなりません。「不易・流行」の言葉を使えば、「人たる人の心の在り方」は昔も今も変わってはならないものと思うのです。

上述のPTAや地域住民の関わり

り合いの希薄さは、近年見逃すこととの出来ない大きな問題です。例えば、自然災害時には住民同士の助け合いは不可欠です。また、次世代を担う子どもたちは家庭だけでなく、地域の大人が見守り育てていく環境作りが益々大切になってくるのではないのでしょうか。

我々「退職校長会」はこの大きな社会の流れを正しく見詰め、本会の目的である「地域の教育に寄与する」ことを念頭に、お世話になってきた飯能市や地域の自治会に、一人ひとりが持つている知恵や力を重ねて協力していきたいと思うところがあります。

本会の会報「清脩」の名の意味するものは「清廉潔白の人の集団」に相応しいとのこと、新井清寿先生が名付けた題字であります。

しかし、私は今だその域には遙かに遠く、そのような者が巻頭言を六年間も担当させて頂くとは、本当に僭越でありました。しかも歴史上にもたぐい稀なるコロナ禍を背負い、活動を全て中止すると経験もしました。そんななかで重責を全う出来たのは、会員の皆様のご支援、ご協力を頂いたお陰であります。ここに深く感謝を申し上げます。有難うございました。

ウォーキングと私

齊藤 芳久

健康増進のためにと一年半位前から、一日一時間半程のウォーキングを行っている。継続できているのは、以下のようなことから。

まず、県の健康アプリを知ったこと。これは、スマートホンで一日の歩数を送信すると性別、年代別等で自分の順位が表示されるというものである。翌朝、順位を見ては一喜一憂。歩数や順位という数字の魔力が尻をたたいてくれる。次は、木々の様相、鳥や虫の声、山中や道端の草木と花壇の花、漂う花の香り、木や草の実の懐かしい味等々の季節の変化を五感で味わえること。同じコースでも日々の変化に気づけた自分に満足しながら歩く。気に入った景色や季節の花々をスマートホンでパチリ。名前を調べるのも楽しみ。

さらに、ウォーキングや犬の散歩、庭や畑・道端での作業等の人との出会いがあること。会釈程度の挨拶から時候や労いの言葉も加わる。互いに名乗り、住まいを確かめる。花や犬の名前を尋ねる。犬も懐いてくれる。顔馴染みとなり会話が增えるのも楽しい。等々。今後、健康に気をつけ健康のためにウォーキングを続けたい。

新会員のことは

感謝を込めて

馬場 治男

(飯能市立南高麗中学校)

長いようで短かった、三十八年間の教職生活に三月三十一日に終止符が打たれました。最後まで教職を全うできたのは、生徒、保護者、地域の皆様、そして先輩や同僚の先生方のお陰であると深く感謝いたします。退職前の三年間は、南高麗中学校の校長としてコロナ禍の中ではありましたが、大きな事故もなく学校を止めずに来れたことにあらためて感謝いたします。

また、日高市でお世話になった二年間を除き三十六年間は飯能市でお世話になりました。飯能市のスポーツであるホッケーに出会い、ライフワークとしてホッケーのタレント発掘・育成に関わらせていただけるようになったのも、その運命的な出会いがあったからだと感じています。

この度、飯能市退職校長会に入会させて頂いた、過日、総会に参加させて頂きました。懐かしい諸先輩にお目にかかることができ、先輩方の生き生きとしたお姿に気が引き締まる思いでした。四月からは飯能市生涯学習課で社会教育指導員としてお世話になっていきます。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(現 飯能市教育部生涯学習課)

文芸

短歌

田園風景

浅見 信

六月の堀を流るる水入れてたちまち田園代掻き終わる

早苗田に舞うがいかにも楽しげな紋白二つからみつつ飛ぶ

早苗田のあぜ塗る農夫丸き背も土の汚れも清らに映る

米の齢に

大高 秀夫

立ち眩み 倒れて強か 老軀うち賀状も書けず 年改まる

臥所をば 階下に移し 今しばし見果てぬ夢を 微睡みてみむ

凌霄花 茜の空に 攀じ昇り戦なき世を 揺れて祈れり



山歩き

細田 俊雄

山腹の木立のもとにおみなえし一足先に秋は来にけり

山頂に鮮やかに咲く山百合に額の汗はそつとひっこむ

平九郎逃れ辿った顔振りは霧の彼方にかすかに浮ぶ

日々穏やかに

澤田 清志

籐の椅子主を亡くして縁側にふたつ並んで薔薇を見つめる

ブラブラと昔通った路地裏を君と散策「ここに駄菓子屋」

歯をみがく夜景はいつも変わりなくただ月は満ち今宵十六夜

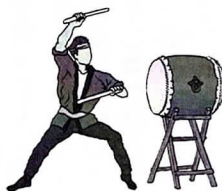
祭り

中山 亨

太鼓鳴り始まる囃子三年も待ちし祭りに命吹き込む

太鼓笛鉦の響きて待ちていし一番星に祭りは昇る

ソーレソレ声を限りに叫びおりやがて祭りは上り詰めいく



写真

佐藤 信弘
「夏銀河」



木工芸



浅見 敏彦
ウッド・クラフト「森の家」

編集後記

○ご多忙にもかかわらず、たくさんの方の皆様からの貴重な原稿をいただき、「清脩 第四十三号」を発行することができました。

○「行事報告」の欄や数々の写真では、前編集担当の山下利明氏に多大なるご協力をいただき掲載することができました。

○会報担当となつて初めての編集作業でした。原稿のご依頼を通して諸先輩との交流もでき、有難い限りでした。今後とも、会報を通してのご支援よろしく願ひいたします。

(伊藤 誠 記)